



「喫茶室ルノアール」と「椿屋珈琲」に、ようやく落ち着きが



喫茶店の「喫茶室ルノアール」などを展開する銀座ルノアール<9853>と、「椿屋珈琲」などを展開する東和フードサービス<3329>の中堅喫茶店の業績が回復してきた。

両社はともにコロナ禍で大きなダメージを受けたが、銀座ルノアールは2024年3月期の営業損益が黒字化し、東和フードサービスは2024年4月期に2期連続の営業黒字を確保できる見込み。

仕事の合間に、ほっと一息つける喫茶店に、ようやく落ち着きが戻ってきたようだ。

関連記事はこちら・カフェの「ドトール」が急回復 コロナ禍後の戦略は・カフェ大手の「サンマルク」に復調の兆し 「コメダ」も好調維持

4期ぶりの営業黒字に

銀座ルノアールが2024年2月に発表した2024年3月期第3四半期決算で、通期の業績予想である売上高74億1500万円（前年度比21.1%増）、営業利益8300万円（前年度は4億1400万円の赤字）を据え置いた。

同第3四半期時点で売上高は23.5%の増収で、営業利益も900万円（前年同期は3億5200万円の赤字）の黒字を確保しており、通期目標を達成できる可能性は高そうだ。

実現すれば2020年3月期以来4期ぶりの営業黒字となる。

2024/3は予想 2期連続の営業黒字に

一方、東和フードサービスも2024年2月に発表した2024年4月期第3四半期決算で、同第2四半期時に上方修正した通期予想の売上高122億円（同12.5%増）、営業利益8億6000万円（同39.9%増）を据え置いた。

同第3四半期は16.1%の増収、87.8%の営業増益と、通期を上回る伸び率となっており、2期連続の営業黒字はほぼ確実といえそう。

同社は2021年4月期、2022年4月期に2期連続で営業赤字に陥っていたが、2024年4月期の売上高と営業利益はコロナ禍前の2019年4月期（売上高113億500万円、営業利益4億8700万円）をそろって上回る見込みで、次第に日常が当たり前になりつつある。

2024/4は予想 大手も好調に推移

カフェ業界は大手企業で業績の回復が鮮明になっており、「ドトール」などを運営するドトール・日レスホールディングス<3087>によると、ドトールの部門利益が前年同期の3倍ほどで推移している。

また「サンマルクカフェ」などを展開するサンマルクホールディングス<3395>は、2024年3月期の売上高は630億円（前年度比8.9%増）に、営業利益は20億円（同8.34倍）を見込んでいる。

「コメダ珈琲店」などを運営するコメダホールディングス<3543>も、2024年2月期に売上高425億円（同12.3%増）、営業利益87億円（同8.4%増）の増収増益を見込む。

日本フードサービス協会によると2023年の喫茶業界の売上高は前年比120.6%で、客数（前年比109.3%）、客単価（同110.4%）ともに10%前後の伸びとなった。

ただ、コロナ禍前の2019年と比較すると売上高は96.2%に留まっている。店舗数も93.7%と減少しており、コロナ禍の中で倒産や休廃業が多く発生したことがうかがえる。

文：M&A Online